子どもの居場所づくり相談窓口

令和元年9月、徳島県社会福祉協議会に「子どもの居場所づくり推進コーディネーター」を配置し、相談窓口を設置しました。地域における子どもの居場所づくりを推進するため、本会では、各地域の取組や活用可能な社会資源の情報などを集約した支援バンクを設置したり、関係者間のネットワークの構築に向けた交流の機会を提供したりして、県内各地に子どもが集い、安全で安心できる「子どもの居場所」づくりの拡充に取り組んでいます。

どうやってやったらいいの?

居場所づくりに取り組みたいけど、何からはじめたら良いか分からない。
どうやってすすめていけば良いか分からない。
といった悩みごとの相談。

助成してほしい

居場所づくりに取り組むことは決まったけど、設備の修繕が必要。
運転資金が不足している。
などの相談。

みんなと交流したい

・他の人はどうやってるんだろう。
・同じ志を持ってる人と話してみたい。
・他にどんなことをしてるんだろう。

気をつけることはあるの?

せっかく集まった子どもたちが、ケガしたり、病気になったりしたらどうしよう。
どこで教えてもらったらいいの。

応援したい!

★ボランティアしたい。
★場所の提供できます。
★資金の援助したい。

気軽に相談してください。

〒770−0943
徳島市中昭和町1−2　徳島県立総合福祉センター3階
社会福祉法人徳島県社会福祉協議会
地域福祉課　子どもの居場所づくり推進事業担当（担当者:金平、前野）

TEL. 088-654-4461（代表）　080-8633-1657
FAX. 088-654-9250
メール ibasyo@tokushakyo.jp

『子どもの居場所』づくり
～豊かな子どもの育ちを地域で見守る～
発行日:2020年2月14日

徳島県社会福祉協議会
国立大学法人鳴門教育大学
（監修:木村直子）

発行:徳島県県民環境部 次世代育成・青少年課こども未来応援室

このリーフレットは 内閣府 令和元年度 地域子供の未来応援交付金 を活用して作成しました。

『子どもの居場所』づくり

～豊かな子どもの育ちを地域で見守る～

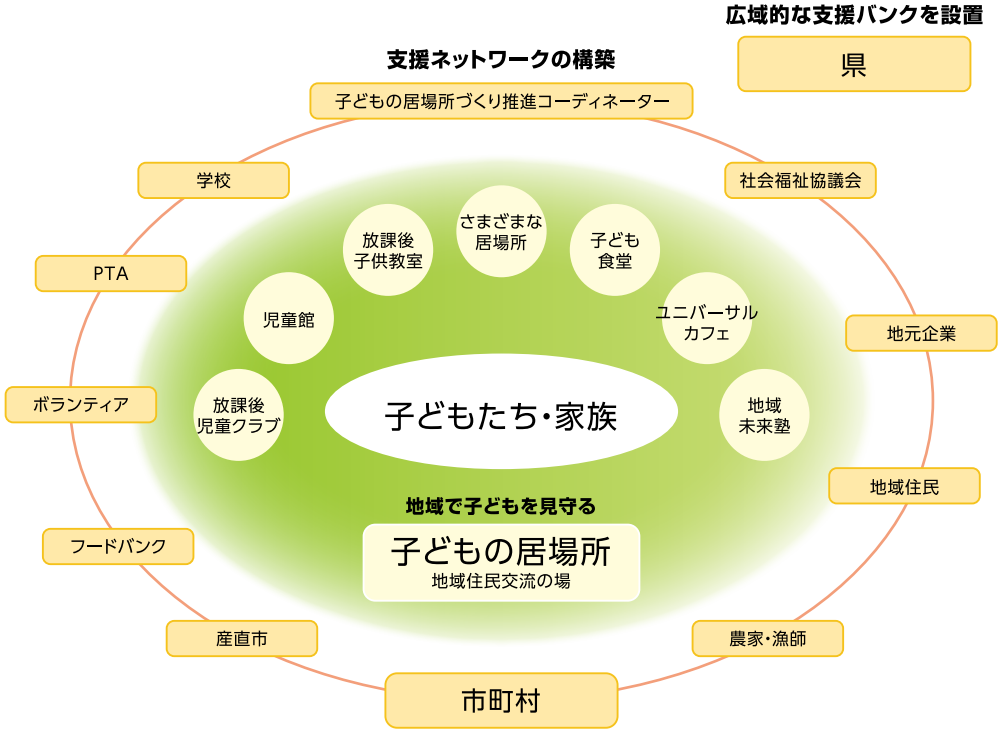
徳島県・徳島県社会福祉協議会・国立大学法人鳴門教育大学

『子どもの居場所』づくり

子どもは、社会を映す鏡である―日本経済の不況や先の見えづらい社会情勢は、子どもたちが育つ環境として非常に厳しい状況といえます。天災や事故、事件のニュースを目にすることも多い現代では、安心で安全な子どもの居場所に、大人の存在が欠かせなくなっています。市町村や県の事業の一環として実施されている居場所はもちろん、地域の中に、子どもの豊かな育ちを願って運営される居場所が多く存在することが、子どもたちの、そして私たちの明るい未来に繋がります。

徳島県では、令和元年5月29日に、徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドラインを策定し、県内の各地域で展開されている「子どもの居場所」づくりをさらに広げ、県民、関係団体、県及び市町村が連携・協力し、持続可能な運営としていく仕組みづくりに取り組んでいます。本リーフレットは、このガイドラインに基づき、子どもの豊かな育ちを地域で見守る「子どもの居場所」づくりを推進していく目的で作成しました。

このリーフレットでは、県内にある「子どもの居場所」をいくつか紹介しています。「今日も楽しかったな」「子どもであることは、よいことだな」「この地域に生まれ育ってよかったな」という感覚を、子どもたちが自然に身に付けられるような取り組みや、子どもと大人が気負うことなく「ほっとできる」居場所づくりが、このリーフレットを手にした人から、広がっていくことを願っています。



徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン

令和元年5月29日策定

1 目的

このガイドラインは、徳島県における民間主導により展開する「子どもの居場所」づくりの取組みを各地域に広げるため、県民、関係団体、県及び市町村が連携・協力し、持続可能な運営とする仕組みをつくることを目的とする。

2 「子どもの居場所」の定義

「子どもの居場所」とは、地域の大人との継続的な交流ができる、子どもたちにとって安全で安心な居場所であり、信頼関係のもとでの様々な活動を行う中で、すべての子どもたちが夢や希望をもって健やかに成長していける場である。原則として、18歳に満たないすべての子どもや家庭を、地域で見守る子どもたちの居場所である。

(1) 民間主導で進められる「子どもの居場所」
- ○無料または安価で栄養のバランスが良い食事や温かな団らんを提供する子ども食堂・ユニバーサルカフェなど誰もが参加できるもの
- ○子ども会、青少年活動団体、プレイパークなど

(2) 子どもたちの放課後の生活を支える施策
放課後児童クラブ、放課後子供教室、地域未来塾、児童館、子どもの生活・学習支援事業など

(3) その他、地域の実情に合わせた多様な「子どもの居場所」

3 「子どもの居場所」の機能・役割

(1) 地域の中での「子どもの居場所」
- ○「子どもの居場所」は、子どもの人権に十分に配慮し、子ども一人ひとりの人格を尊重し、子どもに影響がある事柄に関して、子どもが意見を述べ参加できるようにする。
- ○子どもたちに、安心できる居場所を提供し、地域で見守りを行う。
- ○子どもが遊び、学習活動及び読書活動などを自主的に行える環境を整え、必要な支援を行う。

(2) 日常の生活支援

①子どもの健やかな成長と健康を保障する
- ○食事や学習、会話、レクリエーション活動を通して生活習慣を身に付けたり、周囲の人との関わる力を身につける。
- ○信頼できる大人と活動をともにする中で、自信や意欲、自己肯定感など心理的な安定をはかる。
- ○「子どもの居場所」が、子どもたちにとって安心できる真の居場所となるよう努める。

②社会のルール等を身につける
- ○年齢の違う子どもたちと一緒に遊ぶ機会を提供し、子どもたちが集団で一緒に過ごす中で、協力及び分担や決まりごと等の必要性を理解し、主体的に行動できるようにする。
- ○手洗いやうがい、持ち物の管理や整理整頓等の基本的な生活習慣が身に付くように支援する。
- ○子どもたち自身が自分たちで活動を計画したり実行したりする機会をつくり、子どもの自主性や意欲が高められるよう支援する。
- ○子どもの年齢に応じて、子どもたち自身が調理をする機会をつくり、自分で調理ができるようにする。

③共食機会の確保
- ○子どもの孤食や欠食を防ぎ、地域の人々と一緒に食事を楽しむ団らんの機会を提供する。

(3) 保護者の子育て支援
- ○仕事などにより時間的に余裕がない保護者に、少しでも子どもと向き合う時間を持ってもらえる工夫を行う。
- ○子育て等について保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛ける。
- ○仕事などで家庭にいない保護者が安心できるよう、家庭で子どもだけで過ごす時間が少なくなるよう工夫を行う。

(4) 配慮を必要とする子どもへの対応
- ○家庭に事情のある子どもの地域における見守りの場として、子どもがより参加できるよう、関係機関や地域などと連携する。
- ○子どもや家庭状況について特別な支援が必要であることの早期発見に努め、把握した場合は、市町村・福祉事務所・児童相談所などの行政機関につなぐ等の対応を行う。

(5) 地域の人々と交流できる機会の提供

①遊び、学び、触れ合い
- ○製作活動や伝承遊び、地域の文化にふれる体験等の多様な活動や遊びを工夫する。
- ○子どもが身近なテーマを学び、学ぶことの楽しさを感じる機会を提供する。
- ○地域の人たちと一緒に遊んだり、食卓を囲んだりして、交流を深める。
- ○保護者や学校、地域の人たちに活動について理解を深めてもらうため、活動や行事に参加する機会を設ける。

②食育
- ○食事を提供する場合は、栄養バランスを考慮する。
- ○自分で調理をすることで、行事食や郷土料理、地産地消、フードロスなどについて知る機会を提供する。
- ○食文化について知るなど豊かな食を育む機会を提供する。

徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン

令和元年5月29日策定

4 子どもの安全対策・衛生管理など

(1)安全管理・ケガの予防(マニュアルの整備、保険加入)

○運営者は、事故やケガの防止に向けた対策や発生時の対応に関するマニュアルを作成する。

○運営者は、開設時間中は、現場に常時、責任者を配置する。

○運営者は、「子どもの居場所」の安全・安心を高め、様々なリスクに備え、損害賠償保険や傷害保険等に加入する。

(2)衛生管理(食品衛生・アレルギー対策・感染症対策等)

○運営者は、手洗いやうがいを励行するなど、日常の衛生管理に努める。

○運営者は、調理した飲食物を提供する場合などには、事前に保健所に相談する。

○運営者は、施設設備や食事等の衛生管理を徹底し、食中毒の発生を防止する。

○運営者は、賞味期限や消費期限を遵守する。

○運営者は、飲食物を提供する場合には、食物アレルギーの有無について確認するなど、安全に配慮する。

(3)防災・防犯対策

責任者は、管轄の消防署や警察と連携を図り、事前に非常口、避難経路及び不審者情報等について確認するなど、子どもの安全確保に努める。

(4)個人情報の秘密保持

運営者は、子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、活動中に知り得た事柄の秘密保持に努める。

5 地域の実情に応じた「子どもの居場所」づくりの推進支援

地域の実情に応じた「子どもの居場所」づくりを、フードバンク・NPO法人等の民間団体・学校・PTA・地域住民・企業・農家・社会福祉協議会・行政等が連携・協力し、それぞれの立場において主体的に取り組む必要がある。

その取組みを、県内各地に広げ、効果的で持続可能な運営とするため、県や市町村は、地域のニーズに応じた支援策を講じる。

(1)「子どもの居場所」を運営したい人への支援

県は、家庭の事情で、放課後や休日等に一人で過ごす子どもたちに居場所を提供する子ども食堂、学習支援及び体験活動などの活動の充実を図るため、運営団体等への支援を行う。

○運営メンバー・ボランティア人材育成

○開設・運営支援講座(食品衛生・食育)

○支援ニーズの把握

○先進地域における活動プログラムの調査・分析

○一元的な相談窓口

○助成金等活用支援

(2)広域的な支援バンクを設置

県は、既存の社会資源を有効活用するための広域的な支援バンクを設置し、市町村等が実施する「子どもの居場所」づくりを推進する取組みを支援するため、情報提供や広域的なマッチングなどを行う。

①場所の提供

社会福祉施設、学校の余裕教室、公民館、児童館、商店街の空き店舗など

②食材の提供

企業・商店街・スーパー・産直市・農協・漁協・フードバンクなど

③資金等の提供 企業・団体・個人など

④機会の提供

○放課後児童クラブ・放課後子供教室・地域未来塾などと子ども食堂との連携

○ユニバーサルカフェ・子ども食堂などでの学習支援など

(3)市町村における支援ネットワークの構築

市町村は、「子どもの居場所」づくりが身近な地域で実施されるよう、活動情報の一元化や公共施設における場の提供など、運営団体等の支援に努める。

①広域的な支援バンクの活用

②運営団体、学校、家庭、地域間の連絡調整

③安全管理体制の整備

福祉事務所・児童相談所・警察・保健所・社会福祉協議会等との連携

④周知・広報

○学校・地域住民への理解促進

子どもの貧困対策にとどまらず、すべての子どもと家族の居場所であり、地域の人々が交流する場であることへの理解。

○市町村等の広報誌や自治会の回覧による活動予定の周知・協力依頼

徳島県内の子どもの居場所

1. 始めたきっかけは?
2. どんな人が運営に関わっている?
3. 運営するにあたって大切にしてること
4. 運営していて、嬉しかったこと
5. より良い居場所づくりのために
6. 地域や近隣との関わり

わくわくキッチン(鳴門市)

1 小学校で「放課後子ども教室」を4、5年ほどやっていて、その教室を一緒にしているメンバーで、子ども食堂をする?となって、やらないと!って思った人たちで自然発生的に始めました。そんな話をしていたら、市からも補助金がもらえることになり、社協さんの管理されている公民館も使わせてもらえることになりました。

2 小学校で「放課後子ども教室」に関わっているメンバーが中心です。他にも教室の運営を通して出会った地域の方や小学校関係の方、PTAの方などにも手伝ってもらっています。近くの鳴門高校の高校生もボランティアに来てくれます。

地元の食材を使った手作りのご飯。主菜だけでなく副菜やデザートもついており栄養バランスが考えられた献立になっている。おかわりもできるようにたくさん準備されており、お腹いっぱい食べて帰ることができる。

3 ここに来る子どもたちがゆっくり過ごせたらいいなぁ、と思っています。またこの子ども食堂に携わるスタッフの誰もが、一人でも多く子どもたちにのびのびと過ごして欲しいと願って、しています。

4 子どもが、にこにこして帰ってくれることが一番うれしいですよね。

わくわくキッチンが開催される公民館の入り口。公民館に入ると、子どもたちの笑い声が聞こえ、おいしいご飯のいい匂いが漂っている。

その日のメニューに使われている食材が、誰から提供されたものなのかを記載し、廊下に貼っている。

5 制約がなく使うことのできるお金を補助してくれると大変助かるなぁと思います。場所も私用地で開設できたら、キッチンや備蓄に困らないだろうなぁと思います。

6 社協の人に声をかけたら、食材を持ってきてくださったりとか、たまに近所の老人会の人がご飯を食べに来てくださったりとか。鳴門高校からも、ボランティア活動の一環で、来てくださったりします。今後は近隣の自主防災組合の方々と一緒に防災訓練もできたらと考えています。

シアター用のスクリーンもあり、アニメや映画が映し出されている。座ると、食事を運んできてくれる。好きな時に食べ始めて、好きな時に食べ終わって、部屋にあるおもちゃで遊んだり、話をしたりしている。食事はたくさん準備されており、「おかわり欲しい。」という声も聞こえてきた。

“ツリーハウスで遊ぼう!”（阿波市）

1 まちの人口が次第に減る中、このまま何もしなければ大変な未来になる危機感から、まちづくり未来会議を設立した。ショッピングセンターアワーズを中心に、人が集まる仕組みを考えるワークショップで出た意見から、ツリーハウスの森をつくることになった。この森は20年前に阿波町の住民と行政が協働して作ったビオトープの公園だが、その役割が薄れていた。この場所を子どもたちの遊び場として再生を始めた。

年に一度ショッピングセンター横の森で開催される“ツリーハウスで遊ぼう!”。子どもたちや地元の方々が、自然の中でのひと時を過ごす。

2 まちづくり未来会議のメンバーの中には、NPOや他団体に属している人がいる。それぞれが得意な分野を受け持ち、組織の人にも呼び掛けて関わってくれている。土地の所有者アワーズさんの協力も大きい。

3 運営に携わってくれる、手伝ってくれる「人」を大切に考えている。たくさんの人たちがそれぞれにすごい能力を持っていて、思いを持っているので、そういう人たちが実現できるようにサポートして、関係をつなぐ係をしている。それから町をよくしていこう!という町に対する思いも大切にしている。

4 嬉しいことばかり。森の中で子どもたちの歓声を聞いていると、自然と顔がほころぶ。ツリーハウスや小屋づくりやターザンごっこをサポートしている未来会議ツリーハウスチームリーダーも、子どもたちが喜んでくれることが一番の励みだと思う。みなさん見返りなんかは期待していないので。手伝ってくれている、ボランティアのみなさんも同じだと思う。

家族連れも多く、子どもたちが自然と触れ合いながら体いっぱい動かして遊んだ。

5 子どもたちに、自然の中で遊んだ思い出を作ってあげたい。今はキッチンガーデンづくりだけの参加だけれど子どもたちも一緒に森づくりに関われるようにメニューを考えていきたい。

6 地域や近隣との関わりは、欠かせない。運営に携わってくれる、手伝ってくれる「人」をつないでいくと、町が活性化されると思っている。それぞれの人の良さ、町の良さを磨いていくことが大切だと。

ニコニコ子ども食堂も焼き芋などを提供したり、地元の方々が子どもに向けた手作りの体験活動を開催。

自然の中では、子どもは遊びの天才!良いもの、見つかったかな?

徳島県内の子どもの居場所

1. 始めたきっかけは?
2. どんな人が運営に関わっている?
3. 運営するにあたって大切にしてること
4. 運営していて、嬉しかったこと
5. より良い居場所づくりのために
6. 地域や近隣との関わり

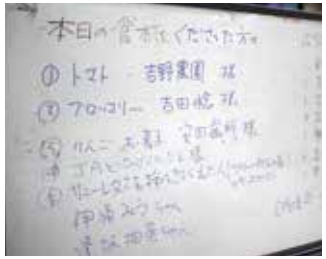
ニコニコ子ども食堂（阿波市）

1 町づくりというか、町の中に子どもがやってくるにぎやかな場所をつくりたいと思っていました。自分が子育てをしている中で、アレルギーのことや子どもの育ちを考えると、食事は大事だなと考えるようになって。加工品とか、スーパーで買ったものばかりでは、どうなのかな、と思っていて。それでも共働き家庭もとても多くて難しい状況もあるなと感じ、食事をしっかり食べてもらいたいという思いで始めました。

ニコニコ子ども食堂は、ショッピングセンターの中で運営されている。子ども食堂開催日以外は、フードコートとして営業している。

2 始めようと思った当初、私自身も移住してきたばかりで、人脈もなかったので、移住を斡旋している観光協会をつてに、そこで出会った町おこしに関心のある方々と一緒に始めました。仕事を引退した方がボランティアに来てくださっています。

3 “食”を大切に考えています。加工品はやめて添加物とかもないものを選んで、なるべく地元産や国産のもので、とこだわっています。忙しい家庭ではなかなか手間暇のかかる食事は難しいと思うので、ここでは、だしをとった味噌汁とごはんを基本に考えています。



その日のメニューに使われている食材を提供して下さった方々やスタッフの方々の名前が、ホワイトボードに記載されている。

4 毎回たくさんの人が来てくれて、おいしいと食べて帰ってくれるのが嬉しいです。みんなで食卓囲んで、団らんしてる風景が、一番の励みになります。あと、ボランティアスタッフさんも、一生懸命頑張ってくださっていて、みなさん材料さえ集まれば“ばっぱっぱって作ってくれて。スタッフみんなで、協力してやっている”チームワーク”もとてもうれしいです。何よりも子どもが、にこにこして帰ってくれることが一番うれしいですよね。

5 家庭の事情などで、団らんを囲んでゆっくり食事のできない子どもたちにも来てもらえたら嬉しいです。今は食事を中心にしていますが、他にも宿題ができたりする場になっていっても良いかなと思っています。また、阿波町以外でもやりたいなぁと思いますが、始めるには、「場所・お金・人・食材」が大切です。一人ではできないので、協力してくれる人は欠かせません。

6 もともと観光協会での出会いをきっかけにスタートしているので、町づくりや町おこしに関心の高い地域の方々と一緒にしています。

ごちそうさま。おいしかった。